

鉄鋼技術の進歩

目 次

「鉄鋼技術の進歩」刊行に際して	303
「鉄鋼技術の進歩」の編集について	304
1. 製 銑	307
1・1 製銑理論と技術の展望	307
1・1・1 製銑理論および研究の発展	307
1・1・2 製銑技術の展望	307
1・2 原料処理法	310
1・2・1 製銑原料事情の推移と展望	310
(1) 日本における原料事情の推移とその経済性への対策	310
(2) 原料問題についての今後の展望	314
(3) 結 言	315
1・2・2 整粒および均鉱	316
(1) 整粒の意義と効果	316
(2) 整粒設備の変遷	317
(3) ベッディング方法と均鉱効果	319
1・2・3 粉鉱処理法	320
(1) 粉鉱処理に関する問題点	320
(2) 焼結原料の予備処理	321
(3) 焼結設備の進歩	321
(4) ペレットについて	323
1・3 高炉用コークスの製造	324
1・3・1 高炉用コークスに関する試験および研究	324
1・3・2 設 備	326
1・3・3 操 業	329
1・4 高炉設備	332
1・4・1 配 置	333
1・4・2 高炉容量	334
1・4・3 炉型式	334
1・4・4 炉体各部構造	337
1・4・5 炉頂構造	339
1・4・6 卷揚げおよび装入設備	339

1・4・7	炉前付属設備	340
1・4・8	高圧操業設備	342
1・4・9	熱風炉設備	343
1・4・10	ガス清浄設備	346
1・4・11	送風設備	347
1・5	高炉操業技術	349
1・5・1	高温送風	349
1・5・2	複合送風	351
1・5・3	高圧操業	358
1・5・4	計算機制御	360
1・6	電気製銑法	362
1・6・1	緒言	362
1・6・2	鉱滓成分の範囲について	362
1・6・3	電気炉容量の拡大とガスの利用	363
1・6・4	砂鉄の予備処理効果について	364
1・6・5	結言	366
1・7	特殊製鐵法	366
1・7・1	直接製鐵法の研究、開発の誘因	366
1・7・2	わが国における戦後の直接製鐵法の研究開発	366
1・7・3	わが国で現在工業的に実施中の主要な直接製鐵法	367
1・8	フェロアロイ製造技術	369
1・8・1	従来の発展経緯	369
1・8・2	現在の問題点およびその解決の方向	371
2.	製 鋼	373
2・1	製鋼理論と技術の展望	373
2・2	溶銑予備処理法	373
2・2・1	溶銑予備処理法の実施例とその効果	373
2・2・2	シェーキング・レードル法	376
2・2・3	将来の展望	378
2・3	純酸素転炉法	379
2・3・1	純酸素上吹転炉法の歴史とその概要	379
2・3・2	最近の LD 法製鋼技術の展望	380
2・3・3	カルド法	406
2・3・4	将来の展望	408
2・4	真空処理法	409
2・4・1	真空溶解法	409
2・4・2	造塊法の改善と真空処理技術の導入	413

2.4.3	真空脱ガス法の現況と真空処理鋼の品質	414
2.4.4	将来の展望	424
2.5	連続铸造法	427
2.5.1	連続铸造法発展の経過	427
2.5.2	連続铸造の現況	427
2.5.3	連続铸造法の将来	435
3.	铸 物	437
3.1	铸物に関する理論と技術の展望	437
3.1.1	緒 言	437
3.1.2	铸造基礎理論	437
3.1.3	铸造金属材料	437
3.1.4	溶 解 法	437
3.1.5	铸型および造型法	438
3.1.6	铸物の検査法	438
3.2	铸鋼技術	438
3.2.1	铸鋼界の概況	438
3.2.2	铸鋼の溶解技術	439
3.2.3	铸鋼の铸造技術	440
3.2.4	铸鋼の検査	441
3.2.5	最近の铸鋼材質の種類	442
3.3	铸鉄溶解技術	443
3.3.1	概 説	443
3.3.2	キュポラ構造の改善	443
3.3.3	キュポラ操業法の進歩	444
3.3.4	低周波誘導炉	445
3.4	強靭铸鉄の技術	446
3.4.1	発展の過程	446
3.4.2	接種铸鉄	447
3.4.3	球状黒鉛铸鉄	447
3.4.4	石灰窒素処理铸鉄	448
3.4.5	共晶黒鉛铸鉄	449
3.4.6	還元スラグ処理による強靭铸鉄	449
3.4.7	その他の強靭铸鉄	449
3.4.8	結 言	449
3.5	造 型 法	450
3.5.1	物理的な結合力によるもの	450
3.5.2	化学的な反応により結合力を得るもの	451

3.5.3 その他	453
3.6 遠心铸造法	453
3.6.1 鑄 鋼	454
3.6.2 鑄 鉄	454
3.6.3 球状黒鉛铸造	455
3.6.4 造型その他	455
4. 加工	456
4.1 鉄鋼加工理論と技術の展望	456
4.2 ストリップ・ミル	456
4.2.1 ホットストリップ・ミル	456
(1) 緒 言	456
(2) 技術進歩の趨勢	457
(3) 設備別の特徴	459
4.2.2 コールドストリップ・ミル	462
(1) 緒 言	462
(2) 圧延の高速化と成品の極薄化	463
(3) 圧延潤滑油 (Rolling Lubrication Oil)	467
(4) 板厚自動制御 (Automatic Gauge Control)	469
(5) ストリップ形状制御 (Strip Shape Control)	470
(6) 計算機制御 (Computer Control)	473
(7) 結 言	474
4.3 線材圧延機	475
4.3.1 緒 言	475
4.3.2 圧延速度の高速化	475
4.3.3 穫動率の向上	476
4.3.4 特殊鋼主体の圧延機の増加	477
4.3.5 付帯設備の発展による製品品質の向上	477
4.3.6 結 言	478
4.4 鋼管製造技術	478
4.4.1 継目無鋼管	478
(1) 概 説	478
(2) 継目無鋼管と溶接鋼管の比較	479
(3) 原価低減	480
(4) 品質および欠陥への対策	481
(5) 高級钢管製造への努力	482
(6) 製管機械	483
4.4.2 溶接鋼管	483

(1) 溶接鋼管の生産量の増大	483
(2) 製管寸法の拡大	484
(3) 溶接鋼管製造法の進歩の概要	485
(4) 帯鋼の前処理およびエントリ (Entry) 設備の進歩	485
(5) 成形設備の進歩	486
(6) 低周波ウェルダーの進歩	487
(7) 高周波ウェルダーの発達	488
(8) 溶接後の焼鈍設備の開発	488
(9) 走行切断機の進歩	488
(10) 非破壊検査方法の進歩	488
4・5 熱間押出し法	489
4・5・1 概　　説	489
4・5・2 押出し鋼材	489
4・5・3 鋼押出しの量産化	489
4・5・4 ビレット素材	489
4・5・5 加　熱　法	490
4・5・6 潤　　滑	490
4・5・7 押出し製品の精度と歩留	490
4・6 型打鍛造法	491
4・6・1 緒　　言	491
4・6・2 部品形状と合理的な鍛造機の選定	491
4・6・3 型設計の手順	491
4・6・4 鍛造作業	492
4・6・5 型製作	493
4・6・6 結　　言	493
4・7 建材製造技術	493
4・7・1 緒　　言	493
4・7・2 H形鋼	495
4・7・3 シートパイル	495
4・7・4 異形丸鋼	495
4・7・5 軽量型鋼	496
4・7・6 そ の 他	496
4・7・7 結　　言	496
4・8 多段式圧延機	497
4・8・1 作業ロールの直径とその数	497
4・8・2 ローン型多段圧延機	498
4・8・3 センジニア型多段圧延機	499

4・8・4	その他の多段式圧延機	500
4・8・5	プラネタリー圧延機	501
4・9	薄鋼板の性能	504
4・9・1	鉄鋼薄板のプレス成形技術	504
(1)	成形技術の力学的基礎	504
(2)	成形技術と薄板の成形特性	506
(3)	成形技術の塑工学	507
4・9・2	冷延鋼板におけるプレス成形性の進歩	507
(1)	緒 言	507
(2)	鋼板の塑性加工性に関する基礎研究	508
(3)	製造設備、技術の発達	511
(4)	結 言	514
4・10	表面処理鋼板	514
4・10・1	緒 言	514
4・10・2	ブリキ	515
4・10・3	亜鉛メッキ鋼板	516
4・10・4	クロム酸処理鋼板およびクロムメッキ鋼板	516
4・10・5	プラスチック皮覆鋼板	517
4・10・6	その他	518
5.	性 質	520
5・1	鉄鋼材料に関する理論と技術の展望	520
5・1・1	概 要	520
5・1・2	工業材料としての鉄鋼材料の発達	520
5・1・3	鉄鋼材料の基礎的研究について	521
5・1・4	他の工業材料との関連	522
5・1・5	今後の鉄鋼材料の進路	523
5・2	材 料	523
5・2・1	高張力鋼	523
(1)	溶接性高張力構造用鋼の出現	523
(2)	高降伏点鋼の発展と溶接技術	524
(3)	低温用鋼の開発と脆性破壊の研究	525
(4)	特殊用途用高張力鋼	525
5・2・2	耐熱鋼とステンレス鋼	526
(1)	耐熱鋼の製造技術の発展	526
(2)	フェライト系耐熱鋼	527
(3)	Cr-Ni-Fe および Cr-Ni-Co-Fe 耐熱合金	527
(4)	Ni 基耐熱合金	528

(5)	Co 基耐熱合金	529
(6)	クリープに関する研究	529
(7)	ステンレス鋼の製鋼技術の発展	529
(8)	ステンレス鋼加工法の進歩	529
(9)	ステンレス鋼の性質とその改良	530
5・2・3	原子炉用鋼	533
(1)	原子力工業の発展	533
(2)	原子力工業における鉄鋼材料の役割	534
(3)	鉄鋼の原子核的性質および炉内での腐食	534
(4)	燃料体および制御材における鉄鋼材料の用途	536
(5)	原子炉用圧力容器	536
(6)	日本における鋼材の照射試験計画	537
(7)	わが国における材料試験炉の建設	538
(8)	わが国の発電炉の建設について	538
(9)	その他の原子炉用鋼材の問題点	538
5・2・4	電磁材料	541
(1)	永久磁石材料	541
(2)	電気鉄板(珪素鋼板その他)	543
(3)	その他の磁性合金	544
5・2・5	快削鋼	545
(1)	快削鋼の誕生と発展	545
(2)	快削性介在物の冶金学的基礎	545
(3)	主要快削鋼の性質と用途	547
(4)	将来の発展への展望	548
5・2・6	構造用鋼	548
5・2・7	工具材料	552
(1)	冷間加工用工具鋼	552
(2)	熱間加工用工具鋼	553
(3)	高速度鋼	554
(4)	真空溶解工具鋼	554
(5)	焼結合金	555
5・2・8	バネ鋼	556
(1)	大形バネ用鋼の開発	556
(2)	バネ寿命の延長	557
(3)	熱処理鋼線の製造	558
(4)	ステンレス耐熱系バネ材料の開発	559
5・2・9	軸受鋼	560

(1) 概 説	560
(2) 軸受鋼	560
(3) 肌焼軸受鋼	563
(4) ステンレス軸受鋼	563
(5) 高温用軸受材料	563
5・2・10 粉末冶金	564
5・3 処理法および測定法	567
5・3・1 加工・熱処理技術	567
(1) オースフォーミング	567
(2) マルテンサイト変態中の加工および その他の加工熱処理	571
(3) サブゼロ処理	571
(4) 結 言	572
5・3・2 試験検査法	573
(1) 鉄鋼分析法	573
(2) 物理試験法	574
(3) 材料品位判定法	576